



在京関中一高会 会報



今年の総会は6月15日。来年は結成60周年です。

心の焚火

在京関中一高会会長 伊藤東平 (昭和37-61回卒)



在京関中一高会会員の皆様、ご健勝にお過ごしのこととお慶び申し上げます。

今年も皆様と共に、母校校長坂本晋先生や、本部同窓会会長佐藤悦郎様のご出席のもと、母校の思い出を語り、故郷の香りに浸り、明日からの活力を充電する時間「在京関中一高会総会」を迎えることができました。

一方では、東日本大震災から3年が経ちましたが、未だ、不自然で不自由な生活を余儀なくされている故郷があります。私達も常に故郷復興への念い「心の灯」を点し続けたいものです。

本会は、会員2,200余名を数え、総会にも毎年120名程(女性会員は20名程)の皆さんが参加しております。これからは、若い会員の参加も積極的に誘って行きたいと考えております。

少し懐古的になりますが、以前は地域のそちらこちらで焚火が焚かれておりました。焚火の周りには幅広い年代の人々が集まり、火に手を翳しながら、四方山話に花を咲かせ、その中では情報交換に止まらず、文化や遊びの伝承もなされておりました。年代を超えた仲間が集まる同窓会とは、焚火に集まる人の輪に似た「心の焚火」ではないでしょうか。

私達は、先輩の方々の健勝を祈り、若い後輩の活躍を喜び、誰に頼まれることもなく母校の発展を望みます。想いを同じにする先輩・後輩が同じ焚火に手を翳す時、火はファイア・ストームとなって皆さんの顔を明るく、心を熱く照らしてくれるものと思います。

さて、今年の記念講演は、講師に加藤基氏(昭和40-64回卒)をお迎えいたしました。氏は、母校卒業後埼玉大学へ進まれ、東京都庁勤務を経て外務省に奉職され、現在は埼玉大学の客員教授としてグローバル人材の育成を推進しておられます。今回は、外務省時代に大使として赴任されたアフリカ諸国の諸事情や我国との関わりを通して、世界が注目するアフリカの潜在力や世界の中の日本についてのお話が伺えるものと思います。

在京関中一高会の今年の焚火は、ノスタルジアに浸れるローカルな火と、世界の今を俯瞰するグローバルな火とが相俟って、温かく大きく輝くものと思います。

先輩方の熱い想いに支えられて

一関一高 校長 坂本 晋



拙文をものしておりますのは卯月朔日。冬の間、磐井川に身を寄せていた白鳥たちもいつの間にか北に向かって旅立ち、釣山の桜のつぼみも幽かに匂ういわいの春を迎えております。

在京関中一高会の皆さまにはご清栄のことと存じます。昨年は同窓会東京支部総会にお招きをいただき、新任校長としてさっそく出向いてご挨拶すべきところでしたが、盛岡市で開催された東北軟式野球大会の日程と重なり欠礼のやむなきに至りましたことを、あらためてお詫び申し上げます。おかげさまで当大会では本校が2年連続3回目の優勝を果たし、開催県のホスト役として面目を保つことができましたことを申し添えます。

昨年、硬式野球部は雌伏の一年となりましたが、軟式野球部は春・夏・秋と県内大会を完全制覇、明石こそ逃しましたが全国大会に手が届くところまで来ております。その他の部も含め今年度も応

春風駘蕩の狭間に

一関一高同窓会会長 佐藤 悦郎 (昭和21-45回卒)



東北の地にもやっと暖かい春風が訪れてきました。東京支部の皆様、同窓会運営につきましては常日頃御高配を賜り心から深謝いたします。御元気の事とお慶び申し上げます。

東北の被災地は満3年を迎え、遅れているといわれる中、本格的な恒久施設の建設が多く、仮設住宅から永住出来る集合住宅に、高台地移転の敷地造成へと着実に進行してきております。

移動の3月。例年より少なめながら14名の移動がありました。副校長の梅津先生は葛巻高校長に、同窓会副事務局長の鈴木先生は水沢高校に転任されました。梅津先生は2月20日に開催の釜石・大槌支部にごいっしょ頂いたばかりでした。鈴木先生は7年間在職ですが御本人曰く「高校3年間と併せて10年一高に居た」という。御二人には殊に事務局で御世話になり、厚く御礼申し上げます。

東京支部は昨年柳沢会長から伊藤東平会長に変わりましたが、昨年11月17日に関西支部25周年記念総会が京都で開催の時、そして本年1月17日盛岡支部竹内会長の瑞宝中綬章叙勲祝いの会に御祝いに馳せ参じて頂きました。京都・盛岡とまさにこれは東奔西走ということで、就任早々の大活躍に平野副会長共々感謝申し上げます。

昨年末発行しました同窓会名簿は、同窓生の皆様方の御協力、御芳志を賜り厚く御礼申し上げます。今迄の形態を一新し大変好評を頂き、先ずは安堵致しておりましたが、大変な誤記掲載が一名様にありまして、御購入の方々には直接訂正お願いとお詫びの書状を御送り申し上げます。この東京支部会報の誌面も拝借しまして、ここに改めてお詫び申し上げます。

4月新進気鋭の先生方を迎え、素晴らしい陣容で新年度をスタートしました。4月7日は希望溢れる附属中、高校の新入生を迎え入学式が厳粛・盛大に行われました。

今後とも同窓会に対し、深い御高配をお願い申し上げます。近況報告までいたします。

援いただきますようお願いいたします。

さて、昨年度は、5月の同窓会盛岡支部総会をはじめ、気仙、仙台、関陽、関西、前沢、東山、釜石大槌、花泉の各総会にお招きいただき、同窓生の方々のお話を伺う貴重な機会をいただきました。また大先輩である二八会、二九会の皆さま方には同期会に重ねて本校を訪問していただきました。それぞれ、会の成り立ちや趣は異なりますが、共通して伝わってくるのは、関中・関高に対する熱い思いです。こうした方々に支えられて本校があることを実感するとともに、時を経ても薄れることのない結束の堅さが物語るの、関高を舞台にした青春時代がいかに素晴らしいものであったかということの証左であると感じています。

皆さんがお元気で、各界を舞台に、また社会の最先端でご活躍していらっしゃるという事だけでも、在校生には大きな励みとなっています。日頃の物心両面にわたる温かいご支援に報いるには、在校生が気持ちを一つに、「遂げずばやまじ」の精神で、学習に部活動に全力で取り組んで関高魂を発揮、一関一高ここにありという成果を目に見える形で実現していくことだと考えます。

同窓会東京支部の皆さんのお知恵とご経験をお借りして、いっそう名実ともに魅力ある関高となるよう努めて参りますので、今後ともよろしくご指導のほどお願いします。

平成25年度在京関中一高会 総会・講演会

第1部 総会



柳澤会長挨拶



同窓会会長挨拶



母校梅津副校長挨拶



42回（昭和18）～57回（昭和33年）



58回（昭和34）～86回（昭和62年）

第2部 講演会

「久保川イーハトーブ世界と樹木葬の里」

講師：千坂 峰 氏



第3部 懇親会

平成25年6月16日 ホテルベルクラシック東京



同期会ニュース

寿久会 (49回-昭25)：恩師に名づけていただいた「寿久会」(昭和19年入学)。若い頃は、何か老人会のようにちょっと抵抗がありましたが、今はびったりの歳になりました。

一関本部、盛岡・仙台・東京支部、いずれも、何か会を開くときは19日が多いようです。一関と東京は現在も毎月19日に集まり、飲み食いしながら歓談しています。はじめは夜の会でしたが、歳とともに昼の会合にかわりました。出席者も少なくなりました。寂しいですが、しかたないことですね。

そして、これら支部の動きや会員の様子を会員みんなに知らせようと始めたのが「寿久会だより」です。言いだしっぺの東京支部が編集を担当して、1月、7月と年2回の発行。今年の1月で30号。15年になります。もう少しつづけようと思っています。(根本貞臣)

関東珊瑚会 (59回-昭35)：昨年9月4・5日の両日、関東珊瑚会が実行幹事となって、全国の同期を集合した「珊瑚会in熱海」を開催。67名参加。懇親会で乾杯の音頭をとった往年の名セカンド菅原昭君、目の不自由をもとにもせずに青森から自力で参加。そのスピーチに、参加者全員が目頭を熱くした。二次会、三次会と心ゆくまで語り合った一夕となった。

翌朝の箱根バス観光は、台風通過中の出発も、芦ノ湖到着時には晴天に。遊覧船ではカンツォーネまででた。終点の小田原駅では名残を惜しみつつ再会を期した。

59回-昭35年卒の元学年幹事、三浦清豪君急逝。惜しい人を亡くした。(高岡繁)

61回-昭37：仲間から平成25年秋の叙勲で竹内重徳君と鳥畑靖彦君の二人が叙勲の栄に浴しました。

竹内君は岩手県庁で土木部長、副知事を歴任。鳥畑君は警視庁に奉職、各部署幹部を歴任。両君共、長年にわたる社会貢献が認められての叙勲です。(平野恵子)

会員トピックス

佐藤成元 (51回-昭27)：日本画家。昨年、11・12月、六本木のドイツレストラン、ツム・アインホルンで、「ドイツ、クリスマス・マーケット巡り」と題して、個展開催。今年3月、八重洲ギャラリーの岩手震災復興絵画展「アリスの風」には、「厳美冬景」出品。日展、東京岩手美術会展、個展、と大活躍。

菅野照夫 (号：雲慧) (54回-昭30)：書家。墨林書道院常任理事、審査員。今年8月2日-9日、上野の東京都美術館で、墨林総合書展開催。これから審査で多忙。

清野 翼 (号：羽龍) (58回-昭34)：今年2月、上野の森美術館の「日本の美術展」に俳画を出品。前岡光明の呼びかけで7名の同期でミニ東京三四会開催。4月には、台湾高雄市で幼児教育に活躍中の小野寺美美子を囲んで、新宿でまたまたミニ同期会。

千葉忠夫 (58回-昭34)：NPO法人日本・デンマーク生活研究所理事長。デンマーク在住。精力的に日本でも活動。今年5月17日、法人の今年度総会に来日。

島地勝彦 (59回-昭35)：作家、元集英社インターナショナル社長。ここ半年の間に大きなメディアに登場。H25.11.27.にNHKBSで、島地本人の半生をドキュメンタリータッチで描いたドラマ「全身編集長～文豪から学ぶオトコの生き方」が放映。また、朝日新聞夕刊連載の人物紹介「人生の贈りもの」にも、H26.3.10から5回にわたってその半生が紹介された。1月からはメールマガジン「週刊SUPER Shimaji-Holic」も発刊して島地節を発信中。"年齢不詳の男でありたい"、と頑張っている。

菊地泰博 (59回-昭35)：出版社・現代書館 社長。1967年に現代書館を設立。社会派の硬派の書籍を出し続けている。ベス

トセラ『戦後史の正体』の著者、孫崎享の『小説 外務省』は、本年4月発売だが、故意につくられた国境紛争と他国に対する憎悪を煽る権力者の実態を、日中米の政府高官を実名で登場させ、話題沸騰だ。

小山芳郎 (63回-昭39)：4月12日に、立教大学(池袋)で原発問題をテーマにした一般公開無料ミニシンポジウム「次世代にどのような社会を贈るのか？」(主催：日本生物地理学会、共催：立教大学理学部)が開催され、ゲストスピーカーとして参加。

今野良 (77回-昭53理数科)：自治医科大学埼玉医療センター教授(産婦人科)。昨年10月6日、一関駅前、ホテルサンルート一関で開催の、一関一高同窓会総会で講演。演題は、「医師として、研究者として、癌の治療から予防へのアプローチ」。

子宮頸癌の原因となるヒトパピローマウイルス(HPV)研究の日本で先駆者であり、世界的にも主導的な立場にある第一人者。HPVワクチン等の接種で公衆衛生、健康改善に貢献したい、と力説。参加者に感銘を与えた。

宇田川(佐藤)恵利(86回-昭62)：本会懇親会で美しいソプラノを聴かせてくれるソプラノ歌手。今年1月12日に、ソロコンサートを開催。会場の神楽坂アートサロン香音里は本会員も多勢で満員御礼。今年は地元一関でもコンサートを！と意気込んでいる。

<訃報>阿部春夫 (42回-昭18・関中)：平成26年2月14日逝去。享年90歳。旧制一関中から旧制第二高校在学中に陸軍予備士官。静岡連隊で終戦。東北大学大学院卒業後、大和銀行勤務。定年後、全国不動産信用保障(株)勤務。麻雀、ゴルフ、カラオケと趣味は豊富。葬儀は2月20日、21日、音楽葬。本会から伊藤会長他役員参列。故人は、本会の42回幹事として活躍。総会、懇親会で、乾杯の音頭を取っていただきました。ここに、ご冥福をお祈り致します。

クラブOB会ニュース

硬式野球部は21世紀枠での甲子園出場、その後春の東北大会での優勝、しかし以降の戦績は低迷を極めております。

昨年度から八重樫新監督(久慈高校、筑波大卒)を迎え、そして秋のシーズン後より伝統校復活に向けて野球部OB盛岡在住の齊藤先輩(32年卒、選抜、社会人で活躍)に時間の許す限りグラウンドに出て指導を戴いております。野球に対する姿勢、心構えの指導から始まり、守りの要であるバッテリーの強化、そして守備面での捕球、送球迄のキメの細かい動作等を、又打撃面では素振りの大切さ、考え方、練習方法などを指導していただいております。

さて、恒例の春の遠征は静岡で行われ、戦績は、

25日：関高7-0富士宮北高、関高6-7富士宮北高

26日：関高3-6三島北高、関高6-8三島北高

内容的には負け越しですが期待を抱かせる感じでした。今年は今

迄になく寒冷に襲われて練習もままならぬ状態だったのですが、そのわりには負けはしたがまとまりがあった試合でした。

投手面では早急に第2第3の投手育成が必要と思われます。

投手は特に制球力の大事さ必要性が求められると思われます。

バッテリーの強化、投球コンビネーション、捕手の捕球、送球の素早い行動、正確さを磨いてほしい(大量点の原因)ものです。

打撃面ではほとんどバットを強く振り抜く積極的な姿勢が見られ、打球に力強さが見られました。夏の大会が大いに楽しみです。

守備面はゴロ裁きは無難に処理していましたがさらに練習を！またピンチ場面での守備は自分に打球が飛んできた場合の対応方法を頭に叩きこんでおけば慌てず対処出来るのでは、と思います。

今年の夏は甲子園出場とはいかないまでも伝統復活の足掛かりに期待したいと願う次第です。秋の新人戦は大いに期待したいと思います。又我々野球部OB会(一関本部、在京支部)は積極的に伝統復活に協力して甲子園で校歌を念願に頑張りたいと願っております。

菅原克彦 (58回 昭34)

事務局便り

●本欄記事内容等に関するお問い合わせは、在京関中一高会事務局へご連絡下さい。

ホームページ：<http://www.ichinoseki-1.com/>

事務局：info@ichinoseki-1.com

(幹事長 清野 翼)

【岩手県人連合会ニュース】

平成26年度「岩手県人の集い」(第40回)は、

平成26年度6月1日(日)10時受付。日暮里・ホテルラングウッド。

アトラクション：盛岡芸妓「常磐津」を舞う。

参加費 一人 8,000円(家族は2名で 15,000円)。

連合会ホームページ参照。<http://www.rengokai-iwate.jp>